

招聘 研究員

氏名	任 仁宰 (IM Injae)
所属機関等	漢陽大学校 東アジア文化研究所
受入期間	2020年1月13日～2020年2月2日
指導教員	孫 安石 (チューター：郭 夢垚)
研究課題	大韓帝国期の私立学校の設立と東アジアの知識交流



開港期における東アジアの知的交流と近代学校

任 仁宰

2020年1月13日から2月2日まで、神奈川大学非文字資料研究センター訪問研究員として行った研究成果を報告する。今回の研究のテーマは、「開港期における東アジアの知的交流と近代学校」であった。研究テーマに沿って、以下の二つの点について資料収集を行った。

- 第一、日本亡命期における梁啓超の社会進化論および新民論に関する最新研究
- 第二、開港期において文明書局をはじめ中国の出版社が編纂し流通させた教科書

訪問研究員として、研究期間中に収集した資料および韓国内外の様々な研究をもとに得られた研究成果を、以下の内容のとおり報告する。

本報告書では、朝鮮の開港後、近代学校が設立され始めた1894年から1910年までに行われた朝鮮および大韓帝国（以下、韓国）¹の近代教育についての内容を整理する。そのなかで、東アジアにおける知的交流を通して韓国に登場した私立学校の設立および運営の様々な側面について考察することを主な目的とする。第一に初期の学校設立を主導したプロテスタント宣教師たちが持っていた東アジア内ネットワークにおける知的交流、第二に中国と日本の社会進化論の影響を受けた韓国私立学校の実例、最後に中国と日本で翻訳、刊行された様々な教科書が韓国の教科書出版に与えた影響についてである。これら三つの特徴について、簡潔に分析したい。

Ⅰ 東アジアのプロテスタント宣教師たちの知的交流

東アジア諸国において展開されたキリスト教系学校の設立は、いくつかの共通した変化をもたらした。第一に教育方法の変化である。伝統的な教育機関から抜け出し、西欧式の教学方法が導入された。第二に教育課程の体系化である。東アジアのキリスト教系学校は、学則および校則に従って学校を運営し、教育課程もまた明確に示している。教科に合った教科書を編纂・出版し、西洋の自然科学、歴史地理などの教科過程が具体化された。第三に教育の普遍化である。東アジアにおける教育は、一定水準以上あるいは一定階層以上の男子のみが対象であった。しかし、キリスト教系学校では伝統社会において教育の機会を得ることのできなかった人々を教育の対象に含めた。第四に女性教育の導入である。東アジアにおいて、開港以前は教育機関を通して行われる女性教育は皆無であった。しかし、キリスト教系学校において女学校を設立したり、女性教育を本格的に行うなど、女性もまた教育の対象としたのである。

一方、韓国での活動を目的として韓国にきた宣教師たちは、ほとんどが日本を経由して入国するしかなかった。この場合、横浜または長崎に長期間滞在することが多く、韓国に入国する宣教師たちは、日本国内の学校、病院などで韓国での宣教にむけた様々な情報の提供を受けていた。代表的な例が韓国で初期に活動していたサミュエル・モフェットである。モフェットは1889年4月、韓国での宣教師に任命され、12月に米国サンフランシスコを出発、横浜に到着した。その後、横浜に2



週間ほど滞在する間に、東京の明治学院およびグラハム神学校、京都の同志社学校および同志社女学校、長崎のスタージ神学校および男子学校を訪問した²。実際に宣教地域で運営されている学校を見て回り、そこで活動する宣教師たちと交流することは、当時の米国内の宣教プログラムでは触れることのできなかつた機会であったという点で重要な成果となった。また、それだけでなくモフェットは1892年、中国の牛莊と芝罘の学校を訪問して学校運営について学んできた。当時、芝罘と登州は宣教師たちの学校設立および運営が大変成功している地域であった。モフェットのみならず大多数の宣教師は、日本と中国の学校現場の内容を習得して理解する過程を通じて、試行錯誤を減らそうとした。これは東アジアにおける宣教師たちの知的交流の一側面といえよう。

その結果、韓国におけるキリスト教系学校は、日本や中国とは異なる運営方式を見せる。簡単に説明すると、第一に、英語ではなく宣教地の言語で授業を行った。日本と中国のキリスト教系学校は、授業を英語で行っていた。そのため、学生が授業の内容を理解できないケースが多くみられ、出席率低下の主な要因となった。このような問題点を認識した韓国の宣教師たちは、入国後は朝鮮の言葉を学ぶことを最優先とした。そして授業も朝鮮の文字ハングルを使うことで問題の最小化を図った。

第二に、授業料および学生の福祉についてである。日本とは異なり、中国や韓国のキリスト教系学校の相当数は学生に対し、寄宿舎をはじめとする衣食住の提供を行っていた。また、授業料を払えない学生に対しては授業料を減免するプログラムを提供していた。

II 社会進化論の流通と近代学校の設立

梁啓超の様々な著作と思想が韓国に伝わりはじめた1906年は、私立学校の設立が集中していた時期でもある。梁啓超の社会進化論を含む各種の論調が国内の言論機関を通して紹介されはじめ、これは大きな反響を呼んだ。当時、爆発的に進んでいた私立学校の設立も、これと無関係ではなかったであろう。

知識人の交流と書籍の流通は、西欧から東アジアへの一方的なものではなかった。また、このような知識情報と資料の交流および流通は、西欧と東アジアの間だけでなく、東アジア域内においても活発に展開された³。スペンサーが来日して進化論の講義を行い、彼の著作が日本語に翻訳され、兪吉濬は『西遊見聞』のなかでスペンサーの進化論を紹介もしている。一方、日清戦争直後に日本で翻訳された西洋の思想と関連する様々な著作物が大量に韓国と中国に伝わった。その後、1906年になり梁啓超の様々な著作が韓国内で紹介され、韓末の知識人たちに大きな影響を与えた。



1 Samuel Moffett



2 梁啓超

梁啓超は、社会進化論を中国と韓国において大衆化させるうえで絶対的な役割を担った。彼の『飲冰室文集』は1903年に刊行されるや韓国内に入ってきたが、そのなかで社会進化論をはじめとする様々な西洋の思想が紹介されている。同書ではダーウィンの進化論において強者の権利が語られて以来、力で侵略し征服することが今



日には文明として認識され、弱肉強食のゆがんだ様相が帝国主義を生んだと説明している⁴。当時、日露戦争と第二次日韓協約(乙巳条約)など、大国による圧制を経験していた韓国の知識人たちにとって、このような梁啓超の主張は非常に説得力をもって伝わった。

また、梁啓超は「新民体」と呼ばれる簡潔な文体を使用し、漢字で文章を書いたことから、開化知識人のみならず儒学者たちも彼の文章に大きな支障なく触れることができたであろう。韓国内の知識人は日本で先に社会進化論に接していたが、多分に意識的かつ積極的に中国人梁啓超から影響を受けていたとみられる。これは、韓国と中国の長い交流の伝統、列強による支配という類似した状況などが作用したのであろう⁵。このような様々なメリットにより彼の著作物は引き続き翻訳され、各種新聞にしばしば引用された。

そうだとすれば、このような梁啓超の近代的概念と思想を韓国の学校設立者たちが、いかに受容していたのかについて考察する必要がある。梁啓超の政治論と近代的概念について韓国の新聞は選択的に受け入れた側面がある。彼らが梁啓超の思想が変化していく過程のなかにおいても1902年から1906年の間に書かれた文章を取捨選択して引用していた点は、彼に内在した政治的立場を選択的に受け入れたという意味を持つ。そして、その結果は義務、服従、愛国などを強調する国民像へと帰結したといえる⁶。

実際、1906年以降の私立学校の設立趣旨をみると、社会進化論の側面から「進化」、「優勝劣敗」、「敵者生存」といった用語を使用するケースが多くみられる。それだけでなく、梁啓超が主張した「新民」という用語をそのまま使用したものもあった。城津(ソンジン)郡に設

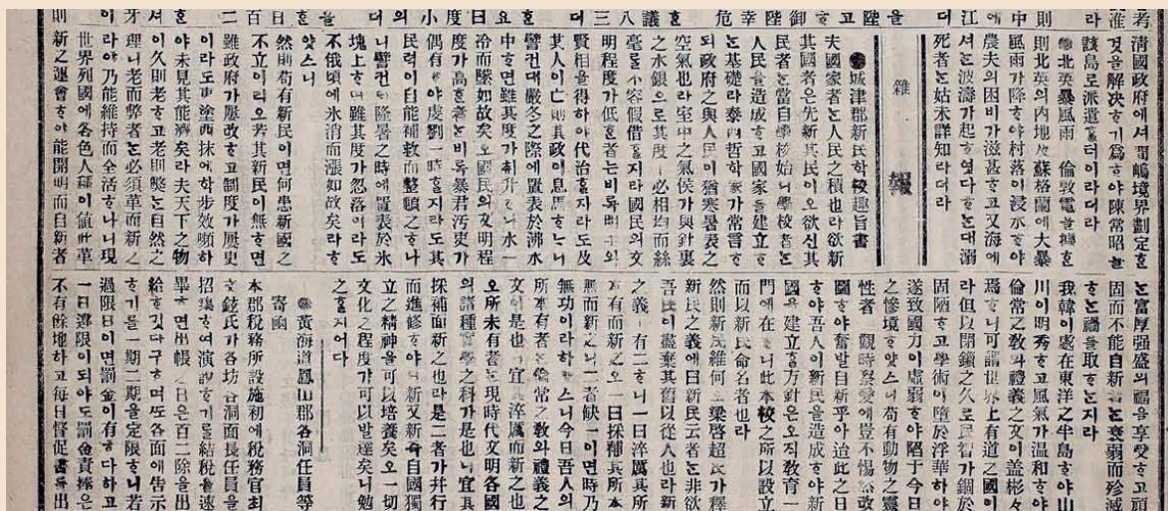
立された新民学校は、学校名に「新民」を使用しており、趣旨書では梁啓超の新民論について直接的に言及し、これを学校設立の重要な基礎としている。

夫國家者 人民之積也라 欲新其國者 先新其民이오 欲新其民者 當自學校始니 學校者 人民을 造成하고 國家를 建立하는 基礎라 (中略) 然則苟有新民이면 何患新國之不立이리오 若其新民이 無하면 雖政府가 屢改하고 制度가 屢更이라도 東塗西抹에 학步效嚙하야 未見其能濟矣라 (中略) 梁啓超氏가 釋新民之義에 曰新民云者 非欲吾民이 盡棄其舊以從人也라.⁷ (下線は引用者による)

咸興(ハムン)郡に設立された新民学校もまた新民の重要性に言及しており、普通教育の必要性を強調している。

有國而後에 有民하고 有民而後에 有國이라 故로 欲新其國者를 先新其民하고 欲新其民者는 先開民智하나니 開智之道는 必自學校始니 (中略) 新民을 造成하야 新國을 建立할 方針은 惟是教育一門이니 所謂教育之方이 只放學徒에 日加誘掖而不與畎畝者流하야 終身未免面墻계하던 是는 不爲普通教化之思想也라 (中略) 其趣旨는 非欲吾人이 盡棄其舊而從人也라.⁸ (下線は引用者による)

これら二つの学校に共通して記されている文言が「非欲吾人、盡棄其舊而從人也、淬厲其所本有而新之、採補其所本無而新之」であり、これは梁啓超の新民論の文言をそのまま引用している。梁啓超は北宋時代に蘇軾が



3 趣旨書

「賈誼論」に記録した「盡棄其舊以從人也」に反駁し、民が新しくなることを二つの意味として解釈していた。つまり、もともとあったものを再解釈して新しくなることと、本来なかった西洋の文物を学んで新しくなることである。梁啓超は、この二つのうち一つでも欠けていれば成功しえないことを強調した⁹。新民学校の趣旨書は、この文言を引用して三綱五倫、礼儀、廉恥といった以前からあったものを新しくし、世界各国の実学問を学んで新しくなるべきであると強調した。これは、梁啓超の主張を学校の設立趣旨に適切に引用して、選択受容した例であるといえる。その他にも1907年と1908年に確認される二つの明新学校趣旨書、1908年の日新学校なども、新民の重要性を強調していたという点で、梁啓超の新民論が韓国の学校設立者たちに重要な影響を与えていたことがわかる¹⁰。

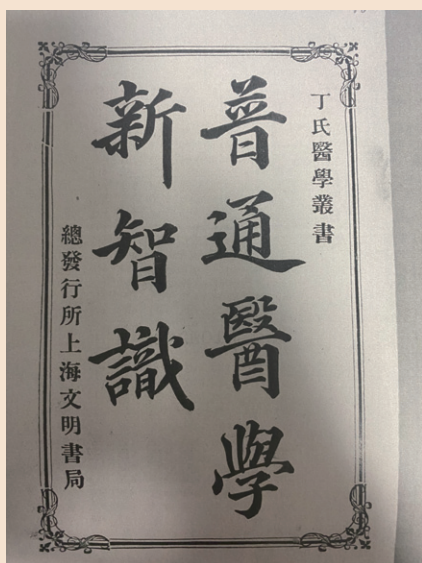
III 東アジアにおける教科書の流通と普及

開港後、韓国の私立学校で使用された教科書は、ほとんどが日本と中国で刊行されたものを翻訳出版したものである。もちろん、伝統教育において行われていた儒教に関する授業では、韓国国内で直接制作出版する場合もあった。しかし、西洋の知識を学ぶ授業、たとえば科学、医学などでは韓国国内で執筆するだけの能力が不足していた。そのため、中国や日本から教科書を輸入して翻訳し、韓国の事情に合わせて編集出版する方法を用いていた。

特に、多く使用されていたのは中国で制作された教科書であった。当時、中国の教科書はほとんどが漢字で書

かれていたため、日本語に不慣れな韓国出版社の翻訳者は日本語の教科書よりも中国の教科書を好んだ。その代表的な教科書が、文明書局が出版した教科書である。文明書局は北京だけでなく漢口、上海、広東、南京などで主に活動していた出版社である。当時、清は「新政」を推し進め、教育分野の改革を重点的に行おうとした。そのために書院を学堂に改め、短期間で大小の学堂の設立を続けた。同時に制度の改善も行った。しかし、このような急速な制度改編は、増加する学生の受け入れが追いつかないという問題点を内在していた。特に、新式教科書の供給不足が代表的な問題点であった。そこで、このような問題点および書籍や教科書の需要が増えるであろうという判断のもと、出版社が作られ始めた。その一つである文明書局は、中国江蘇省南部の都市、無錫で学校を運営する俞復と丁宝書などが、地域の名士である廉泉とともに設立した出版社であった。

文明書局は多くの人材を擁立して出版書籍の質を向上させ、出版された書籍の流通を容易にした。趙鴻雪は挿絵などのために採用した人材だが、挿絵作業のための印刷工程の改善にも多く投資され、結果として銅版、鉛版、コロタイプ版印刷技術に大きな進歩をもたらした。これはまさに文明書局が印刷量を確保する基盤となったと同時に、図書の市場競争力を高める重要な技術であった。また、同郷出身の丁宝福は『蒙学筆算教科書』『蒙学心算教科書』『蒙学衛生教科書』などの教科書編纂に大いに貢献した。文明書局は国学、仏学、道学、医学、算学など様々な分野で約300種類の図書を編纂している。



4 上海文明書局発刊 普通医学新智識



5 教科書



文明書局が人材を迎え入れて育成するにあたり特に重要だと考えていた事業は、留学生への支援事業であった。廉泉は書局が設立される以前から、数名の日本人留学生を支援していた。また、文明書局を通じて留学する学生のためのレセプションを設置し、留学を希望する学生の日本留学を支援し、廉泉自身も1914年に日本に留学した。文明書局が日本への留学を仲介する役割を担ったのである。文明書局が日本への留学を奨励した理由の一つは、書局の経営と密接に関わっている。文明書局は「啓蒙」という趣旨以外にも、日本など各国の書籍を手に入れて翻訳し中国で出版、特に日本やドイツ、フランスなどで使用されている教科書を翻訳して販売しようとした。

文明書局をはじめとする中国の出版社が翻訳出版したヨーロッパや日本の書籍のうち、多くは韓国に入ってきた。また、日本の教科書も韓国国内で流通し、翻訳された。当時、韓国の普成館と徽文館には編集部以外に翻訳部があり、多くの翻訳者たちが作業をしていた。普成館の場合、『東國史略』を皮切りに1909年までに約50冊の書籍を出版している。出版された書籍のうち、『初等小学』『倫理学教科書』『蠶業大要』などを除くほとんどの教材は、翻訳出版されたものである。近代初期の知識の場が新たに再編されていく過程で、新書籍の流入は必然的なことであり、普成館の場合はすでに李容翊（イ・ヨンイク）によって多くの書籍が日本からもたらされていた。したがって、このような書籍を翻訳することが急務であり、教材翻訳のための専門家である翻訳者を置いたという点は注目すべき事実である。

本報告書では、学校を通してみる東アジアの知的交流を大きく三つの側面から考察した。第一にプロテスタント宣教師の人的ネットワークを通じた知的交流、第二に社会進化論に代表される近代思想の伝播、第三に教科書をはじめとする書籍の流通である。さらに補完すべき点が多いが、このような知的交流を通して東アジア、特に近代教育の後発者である韓国は中国や日本に比べて、試行錯誤の過程を減らし、より多くの成果を取れたとみることができる。より詳細な分析を行うことで韓国の近代学校設立と運営についての研究を、東アジア的視野から広げていけるように努力していきたい。

【注】

- 1 本報告では、1894年朝鮮、1897年大韓帝国を通称する用語として「韓国」を使用する。これは発表の便宜上によるものである。
- 2 Samuel A. Moffett, Samuel A. Moffett's Letter, January 28, 1890
- 3 ヤン・イルモ「東アジアの社会進化論再考」『韓国学研究』17、2007、p. 92
- 4 キム・ソクン「旧韓末における社会進化論の需要と機能に関する批判的再検討」『西歐文化の受容と近代改革』テハクサ、2004、pp. 206-207
- 5 チェ・ヒョンウク『梁啓超、朝鮮の亡国を記録する』クルハンアリ、2014、p. 258
- 6 チョン・ドンヒョン「大韓帝国期における中国梁啓超を通じた近代的民権概念の受容」『近代啓蒙期の知識概念の受容とその変容』2004、p. 428
- 7 「城津郡新民学校趣旨書」大韓毎日申報、1907年10月25日
- 8 「咸興郡南三平面松洞新民学校趣旨書」大韓毎日申報、1908年1月19日
- 9 梁啓超「新民論」『飲冰室文集上 通論』廣智書局、1987、p. 75「新民云者、非欲吾民、盡棄其舊以從人也、新之義有二、一曰淬厲其所本有而新之、二曰採補其所本無而新之、二者缺一、時乃無功。」
- 10 「明新學校序」皇城新聞、1907年9月19日；「明新其校」、1908年9月17日、「日新又新」、1908年11月5日

【写真出典】

- 1 Samuel Moffett
出典：国民日報記事
<https://news.naver.com/main/read.nhn?mode=LSD&mid=sec&sid1=001&oid=005&aid=0000973290>（参照 2020年3月20日）
- 2 梁啓超
出典：イム・ソクジンほか、『哲学辞典』、2009
<https://terms.naver.com/entry.nhn?docId=389463&cid=41978&categoryId=41985>（参照 2020年3月20日）
- 3 趣旨書
出典：大韓毎日新報1907年10月25日 記事
<https://www.nl.go.kr/newspaper/detail.do?id=CNTS-00093142450>（参照 2020年3月20日）
- 4 上海文明書局発刊 普通医学新智識
出典：東京大学総合図書館所蔵
- 5 教科書
出典：筆者所蔵



2020년 1월 13일부터 2월 2일까지 가나가와대학 비문자자료연구센터의 방문연구원으로서 진행한 방문연구의 성과를 보고한다. 이번 방문연구의 주제는 「개항기 동아시아 지적교류와 근대학교 (開港期における東アジアの知的交流と近代学校)」였다. 연구 주제에 따라 두 가지 테마에 대한 다양한 자료를 수집하였다. 두 가지 테마는 다음과 같다.

첫째, 일본 망명기 양계초의 사회진화론 및 신민론 관련 최신 연구

둘째, 개항기 중국 문명서국을 비롯한 중국의 출판사들이 편찬, 유통한 교과서

방문연구원 기간 동안 수집한 자료와 국내외의 다양한 연구를 토대로 얻은 연구성과는 다음의 내용을 통해 제시하고자 한다.

본 성과보고서에서는 조선이 개항된 이후 근대학교가 설립되기 시작한 1894년부터 1910년까지 진행된 조선 및 대한제국 (이하 한국)¹의 근대교육에 대한 내용을 정리한다. 그 중에서 동아시아 지적 교류를 통해 한국에 나타난 사립학교 설립 및 운영의 다양한 측면을 살펴보는 것을 주요한 목적으로 한다. 첫 번째는 초기 학교 설립을 주도한 개신교 선교사들이 가지고 있던 동아시아 내 네트워크에서의 지적 교류, 두 번째는 중국과 일본의 사회진화론의 영향을 받은 한국 사립학교의 실제 사례, 마지막으로 중국과 일본에서 번역, 출간된 다양한 교과서들이 한국 교과서 출판에 끼친 영향에 대한 것이다. 이러한 세 가지 특징에 대해서 간략히 분석하고자 한다.

1. 동아시아 개신교 선교사들의 지적 교류

동아시아 각국에서 전개된 기독교계 학교 설립은 몇 가지의 공통적인 변화를 가져왔다. 첫째, 교육 방법의 변화가 이루어졌다. 전통적 교육기관에서 벗어나, 서구식의 교학 방법이 도입되었다. 둘째, 교육과정이 체계화되었다. 동아시아의 기독교계 학교는 학칙 및 교칙에 따라 학교를 운영하면서 교육과정 또한 명확하게 명시하고 있다. 교과에 맞는 교과서를 편찬, 출판하고, 서양의 자연과학, 역사지리 등의 교과과정이 구체화되었다. 셋째, 교육이 보편화되었다. 동아시아에서의 교육은 일정 수준 이상, 혹은 일정 계층 이상의 남자만이 대상이었다. 그러나

기독교계 학교에서는 전통사회에서 교육의 기회를 얻지 못하던 이들을 교육의 대상에 포함하였다. 넷째, 여성교육이 도입되었다. 동아시아에서 개항 이전까지 교육기관을 통해 이루어지는 여성교육은 전무했다. 그러나 기독교계 학교에서 여학교를 설립하거나, 여성 교육을 본격적으로 전개하면서 여성 또한 교육의 대상으로 편입시켰다.

한편 한국에서 활동하기 위해서 입국하는 선교사들은 대부분 일본을 거쳐서 입국해야만 했다. 이 경우 요코하마나 나가사키에서 장기간 체류하는 일이 많았는데, 한국에 입국하는 선교사들은 일본 내 학교, 병원 등에서 한국 선교를 위한 다양한 정보를 제공받았다. 대표적인 사례가 한국에서 초기에 활동했던 사무엘 마ffet (Samuel Moffet) 이다. 그는 1889년 4월 한국 선교사로 임명받고 12월 미국 샌프란시스코를 떠나 요코하마에 도착하였다. 마ffet은 요코하마에 2주 정도 체류하였는데, 그 기간동안 마포삼열은 도쿄의 메이지학원 및 그레함신학교, 교토의 도시샤학교 및 도시샤여학교, 나가사키의 스티지신학교와 남학교를 방문하였다.² 실제 선교지역에서 운영되고 있는 학교를 돌아보고 그 곳에서 활동하는 선교사들과 교류하는 것은 당시 미국 내의 선교프로그램에서는 접할 수 없었던 기회였다는 점에서 중요한 성과였다. 또한 뿐만 아니라 마ffet은 1892년 중국의 우장 (牛莊) 과 지푸 (芝罘) 의 학교를 방문하여 학교 운영을 배우고 돌아왔다. 당시 지푸와 등주 (登州) 는 선교사들의 학교 설립 및 운영이 매우 성공적으로 이루어지고 있었던 지역이었다. 마ffet 뿐 아니라 대다수의 선교사들은 일본과 중국의 학교 현장의 내용을 습득하고 이해하는 과정을 통해 시행착오를 줄이고자 했다. 이것은 동아시아 내 선교사들의 지적 교류의 한 측면이라고 할 수 있다.

그 결과 한국에서의 기독교계 학교는 일본, 중국과는 다른 운영 방식을 보인다. 간단하게 설명하면 첫째, 영어가 아닌 선교지의 언어로 수업을 진행하였다. 일본과 중국의 기독교계 학교는 영어로 수업을 진행하였다. 이 때문에 학생들이 수업 내용을 이해하지 못하는 경우가 많았고, 출석을 하라 하는 주요한 원인이 되었다. 이러한 문제점을 인식한 한국 선교사들은 입국 후 조선의 언어를 배우는 것을 최우선으로 삼았다. 그리고 수업 역시 한글을 사용함으로써 문제를 최소화하고자 했다.

두 번째는 수업료 및 학생들의 복지에 대한 부분이다. 일본과는 다르게 중국과 한국의 기독교계 학교의 상당수는 학생들에게 기숙사를 비롯한 의, 식, 주를 제공하였다.



또한 수업료를 내지 못하는 학생들에게는 수업료를 감면 할만한 프로그램을 제공하기도 하였다.

2. 사회진화론의 유통과 근대학교 설립

양계초의 다양한 저작과 사상이 한국에 전파되기 시작한 1906 년은 사립학교 설립이 집중되던 시기이기도 하다. 양계초의 사회진화론을 포함한 여러 논조가 국내 언론을 통해 소개되기 시작했고, 이는 엄청난 반향을 일으켰다. 당시 폭발적으로 진행되었던 사립학교 설립도 이와 무관하지 않을 것이다.

지식인의 교류와 서적의 유통은 서구에서 동아시아의 일방향적인 것은 아니었다. 또한 이러한 지식 정보와 자료의 교류 및 유통은 서구와 동아시아 사이에서 뿐 아니라, 동아시아 내부에서도 활발하게 전개되었다.³ 스펜서가 일본에 와서 진화론을 강의하고, 그의 저작이 일본어로 번역되었으며, 유길준은 『서유견문』에 스펜서의 진화론을 소개하기도 하였다. 한편 청일전쟁 직후 일본에서 번역된 서양의 사상과 관련된 다양한 책자가 대량으로 한국과 중국에 전파되었다. 이후 1906 년에 들어서 양계초의 다양한 저작이 국내에 소개되면서 한말 지식인들에게 많은 영향을 끼쳤다.

양계초는 사회진화론을 중국과 한국에 대중화시키는데 절대적인 역할을 담당하였다. 그의 『飲冰室文集』은 1903 년 간행되자마자 국내에 유입되었는데, 여기에는 사회진화론을 비롯한 다양한 서양의 사상을 소개하고 있었다. 이 책에서는 다윈의 진화론에서 강자의 권리를 말한 뒤부터 힘으로 침략하고 정복하는 것이 오늘날에는 문명으로 인식되었으며, 약육강식의 그릇된 양상이 제국주의를 낳았다고 설명한다.⁴ 당시 러일전쟁과 을사조약 등 강대국에 의한 압제를 경험하고 있던 한국의 지식인들에게 이러한 양계초의 주장은 매우 설득력있게 다가왔다.

또한 양계초는 ‘신민체’로 불리는 간결한 문체를 사용하였고, 한문으로 글을 썼기 때문에 개화지식인들 뿐 아니라 유학자들도 그의 글을 접하는 데 큰 문제가 없었을 것이다. 국내 지식인들은 사회진화론을 일본에서 먼저 접하였으나, 다분히 의식적이고 주동적으로 중국인 양계초로부터 영향을 받았던 것으로 보인다. 이는 한국과 중국의 오랜 교류 전통, 열강에 의한 지배라는 유사한 현실 상황 등이 작용했을 것이다.⁵ 이러한 여러 가지 장점으로 인해 그의 여러 저서와 글들은 계속 번역되었고 각종 신문에 자주 인용되었다.

그렇다면 이러한 양계초의 근대적 개념과 사상을 한국의 학교 설립 주체들은 어떻게 수용하고 있었는가에 대해 살펴볼 필요가 있다. 양계초의 정치론과 근대적 개념에 대해서 한국 언론은 선택적으로 수용한 측면이 있다. 이들이 양계초의 사상 변화 과정 중에서도 1902 년에서

1906 년 사이에 쓰여진 글들을 취사선택하여 인용하였다는 점은, 그 안에 내제된 정치적 입장을 선택적으로 수용하였다는 의미를 지닌다. 그리고 그 결과는 의무, 복종, 애국 등을 강조하는 국민상으로 귀결되었다고 할 수 있다.⁶

실제 1906 년 이후 사립학교 설립 취지를 살펴보면 사회진화론의 측면에서 ‘진화’, ‘우승열패’, ‘적자생존’ 등의 용어를 사용하는 경우가 다수 확인된다. 뿐만 아니라 양계초가 주장한 ‘新民’의 용어를 그대로 사용하는 경우도 있었다. 성진군에 설립된 신민학교는 학교명을 ‘新民’으로 하고 있는데, 취지서에 양계초의 신민론을 직접적으로 언급하면서 이를 학교 설립의 중요한 기초로 삼고 있다.

夫國家者는 人民之積也라 欲新其國者은 先新其民이오 欲新其民者는 當自學校始니 學校者는 人民을 造成하고 國家를 建立하는 基礎라 (中略) 然則苟有新民이면 何患新國之不立이리오 若其新民이 無하면 雖政府가 屢改하고 制度가 屢更이라도 東塗西抹에 學步效嚙하야 未見其能濟矣라 (中略) 梁啓超氏가 釋新民之義에 曰 新民云者는 非欲吾民이 盡棄其舊以從人也라.⁷ (밑줄은 인용자)

함흥군에 설립된 신민학교 역시 신민의 중요성을 언급하고 있는데, 보통교육의 필요성을 강조하고 있다.

有國而後에 有民하고 有民而後에 有國이라 故로 欲新其國者를 先新其民하고 欲新其民者는 先開民智하나니 開智之道는 必自學校始니 (中略) 新民을 造成하야 新國을 建立할 方針은 惟是教育一門이니 所謂教育之方이 只放學徒에 日加誘掖而不與畎畝者流하야 終身未免面墻계하던 是는 不爲普通教化之思想也라 (中略) 其趣旨는 非欲吾人이 盡棄其舊而從人也라.⁸ (밑줄은 인용자)

두 학교에 공통적으로 서술된 문구가 ‘非欲吾人, 盡棄其舊而從人也, 淬厲其所本有而新之, 採補其所本無而新之,’인데, 이는 양계초의 신민론의 문구를 그대로 인용한 것이다. 양계초는 복송 시대 소동파(蘇東坡)가 가의론(賈誼論)에 기록한 ‘盡棄其舊以從人也’을 반박하면서 백성이 새로워지는 것을 두 가지 의미로 해석하였는데, 본래부터 있었던 것을 재해석하여 새로워지는 것과 본래 없었던 서양의 문물을 배워서 새로워진다는 것이다. 양계초는 이 둘 중 하나라도 결여되면 성공할 수 없음을 강조하였다.⁹ 신민학교 취지서는 이 문구를 인용하면서 삼강오륜, 예의, 엄치와 같이 이전부터 있었던 것을 새롭게 하고, 세계 각국의 실학문을 배워 새로워져야



함을 강조하였다. 이는 양계초의 주장을 학교의 설립 취지에 적절하게 인용하여 선택 수용한 예라고 할 수 있다. 그 밖에도 1907년, 1908년 확인되는 두 개의 명신학교 취지서, 1908년의 일신학교 등도 역시 新民의 중요성을 강조하고 있다는 점에서 양계초의 신민론이 국내 학교 설립 주체들에게 중요한 영향을 끼쳤음을 알 수 있다.¹⁰

3. 동아시아 교과서의 유통과 보급

개항 이후 한국의 사립학교에서 사용된 교과서는 대부분 일본과 중국에서 간행된 책을 번역해서 출판한 것이다. 물론 전통교육에서부터 진행되었던 유교 관련 수업의 경우는 국내에서 직접 제작, 출판하는 경우도 있었다. 그러나 서양 지식을 학습하는 수업, 예를 들어 과학, 의학 등의 경우는 국내에서 책을 집필할 수 있는 능력이 부족하였다. 그래서 중국과 일본에서 책을 수입한 뒤 번역해서 국내 사정에 맞게 편집, 출판하는 방법을 사용하였다.

특히 많이 사용된 것이 중국에서 만들어진 교과서였다. 이 당시 중국 교과서는 대부분 한문으로 이루어졌기 때문에 일본어에 익숙하지 못한 국내 출판사의 번역원에서는 일본어 교과서보다 중국 교과서를 더 선호하였다. 대표적인 교과서가 문명서국에서 출간된 교과서들이었다. 문명서국은 베이징 뿐 아니라 한커우, 상하이, 광둥, 난징 등에서 주로 활동하던 출판사이다. 당시 청나라는 “新政”을 추진하면서 교육 분야에 대한 혁신을 중점적으로 시행하고자 했다. 이를 위해 서원을 학당으로 교체하면서 단기간 동안 크고 작은 학당을 계속적으로 설립하였고, 제도의 개선도 진행하였다. 그러나 이러한 급속도의 제도 개편은 늘어나는 학생의 수요를 제대로 뒷받침해주지 못하고 있다는 문제를 내포하고 있었다. 특히 신식 교과서의 공급 부족 현상은 대표적인 문제점이었다. 따라서 이러한 문제점 및 서적과 교과서 수요가 필요할 것이라는 판단 아래 출판사들이 생겨나기 시작하였다. 그 중 문명서국은 중국 장수성 남부에 있는 도시 우시(无锡)에서 학교를 운영하는 유복(俞復)과 정보서(丁宝书) 등이 지역 내 명사인 염천(廉泉)과 함께 설립한 출판사였다.

문명서국은 많은 인재를 영입하여 출판되는 책의 수준을 끌어올리고, 출판된 책의 유통을 용이하게 했다. 앞서 조홍설(趙鴻雪)은 삽화 등을 위해 영입한 인물이었다는데, 삽화작업을 위한 인쇄 공정 개선에도 많은 투자가 이루어져 결국 동판, 납판, 콜로타이프판 인쇄술에 큰 향상을 가져왔다. 이것은 바로 문명서국의 인쇄물량 확보의 기반이 되며 동시에 도서의 시장 경쟁력을 높여주는 중요한 기술이었다. 또한 같은 고향 출신의 정보복(丁宝福)은 ‘몽학필산교과서’ ‘몽학심산교과서’ ‘몽학위생교과서’ 등 교과서 편찬에 기여한 바가 많다. 문명서국은 국학, 불학, 도학, 의학, 산학 등 여러 분야에서 300여 중

의 도서를 편찬하고 있다.

문명서국이 인재를 유지하고 양성하는 데 있어서 특별히 중요하게 생각했던 사업은 유학생을 지원하는 사업이었다. 염천은 서국이 설립되기 전부터 몇 명의 일본 유학생들을 지원하고 있었다. 또한 문명서국을 통해 유학하는 학생들을 위한 리셉션을 설치하여, 유학을 원하는 학생들이 일본으로 유학을 갈 수 있게 지원하였으며, 염천 역시 1914년에 일본으로 유학을 갔다. 문명서국이 일본으로 유학 가는 중계소 역할을 하게 된 것이다. 문명서국이 일본으로의 유학을 장려했던 이유 중 하나는 서국의 경영과 밀접하게 관련되어 있다. 문명서국은 “계몽”의 취지 이외에도 일본 등 각국의 서적을 확보하여 번역하여 중국에서 출판하고, 특히 현재 일본과 독일, 프랑스 등에서 활용되는 교과서를 번역하여 판매하고자 했다.

문명서국을 비롯한 중국의 출판사에서 유럽과 일본의 책을 번역하여 출간한 교과서 중 다수는 한국어로 들어왔다. 또한 일본 교과서 역시 한국어로 유통되어 번역되었다. 당시 한국의 보성관과 휘문관에는 편집부 외에도 번역부가 있어서 다수의 번역원들이 활동하였다. 보성관의 경우 『동국사략』을 시작으로 1909년까지 50여 권의 서적을 출판하였다. 출판된 책 중 『초등소학』, 『윤리학교과서』, 『잠업대요』 등을 제외한 대부분의 교재는 번역하여 출판한 책이다. 근대 초기 지식장이 새롭게 재편되는 과정에서 신서적의 유입은 반드시 이루어질 수 밖에 없었으며, 보성관의 경우 이미 이용익에 의해 많은 서적들을 일본에서 들여왔다. 따라서 이러한 서적을 번역하는 것이 가장 시급했고, 교재 번역을 위한 전문 인력인 번역원을 두었다는 점은 주목할 만한 사실이다.

본 성과보고서에서는 학교를 통해 바라보는 동아시아 지적 교류를 크게 세 가지 측면에서 살펴보았다. 첫 번째는 개신교 선교사의 인적 네트워크를 통한 지적 교류, 두 번째는 사회진화론으로 대표되는 근대 사상의 전파, 세 번째는 교과서를 비롯한 서적의 유통이다. 아직 보완해야 할 부분이 많지만, 이러한 지적 교류를 통해 동아시아, 특히 근대 교육의 후발주자인 한국은 중국과 일본에 비해 시행착오를 줄이고, 더 많은 성과를 거두었다고 볼 수 있다. 좀 더 세밀한 분석을 통해 한국의 근대 학교 설립과 운영에 대한 연구를 동아시아적인 시각으로 넓힐 수 있도록 노력하겠다.

1 본 발표문에서는 1894년 조선, 1897년 대한제국을 통칭하는 용어로 ‘한국’을 사용하고자 한다. 이는 발표의 편의를 위한 것임을 미리 밝혀둔다.

2 Samuel A. Moffett, Samuel A. Moffett's Letter, January 28, 1890.

3 양일모, 「동아시아의 사회진화론 재고」, 『한국학연구』 17, 2007, 92쪽.



- 4 김석근, 「구한말 사회진화론의 수용과 기능에 대한 비판적 재검토」, 『서구문화의 수용과 근대개혁』, 태학사, 2004, 206~207 쪽.
- 5 최형욱, 『량치차오, 조선의 망국을 기록하다』, 글항아리, 2014, 258 쪽.
- 6 전동현, 「대한제국시기 중국 양계초를 통한 근대적 민권개념의 수용」, 『근대계몽기 지식 개념의 수용과 그 변용』, 2004, 428 쪽
- 7 「城津郡新民學校趣旨書」, 『大韓每日申報』, 1907년 10월 25일.
- 8 「咸興郡南三平面松洞新民學校趣旨書」, 『大韓每日申報』, 1908년 1월 19일.
- 9 梁啓超, 「新民論」, 『飲冰室文集上 通論』, 廣智書局, 1987, 75 쪽, ‘新民云者, 非欲吾民, 盡棄其舊以從人也, 新之義有二, 一曰淬厲其所本有而新之, 二曰採補其所本無而新之, 二者缺一, 時乃無功.’.
- 10 「明新學校序」, 『皇城新聞』, 1907년 9월 19일; 「明新其校」, 1908년 9월 17일, 「日新又新」, 1908년 11월 5일.

